

演題番号：C6

徐脈性不整脈の治療により乳び胸が改善した犬の1例

○植澤 温^{1) 2)}，宮下尚己^{1) 2)}，石田拓也^{1) 2)}，藤原 彬^{1) 2)}，西村 紳¹⁾，檜木佑将^{1) 2)}，
中村 晃三¹⁾，田中 翔^{1) 2)}，山本竜平¹⁾，森 拓也^{1) 2)}

¹⁾ 近畿動物医療研修センター，²⁾ 心臓血管ケアチーム

1. はじめに：乳び胸は脂肪を多量に含むリンパ液が胸腔内に貯留する疾患であり，一次性（特発性）と二次性（右心不全，腫瘍性疾患等）がある。右心不全では静脈圧が上昇することで胸管から静脈系への流入が障害され，胸管から胸腔へリンパ液漏出が引き起こされる。今回，高度徐脈が静脈圧の上昇を招き，乳び胸の増悪因子と考えられた症例に遭遇したため，その概要を報告する。

2. 材料および方法：症例はチベタンスパニエル，雄，1歳齢，8.0kgで，徐脈の精査を目的に紹介来院した。心エコー図検査では軽度僧帽弁逆流を認めた。心電図検査にて洞性徐脈（38回/min）を認め，アトロピン負荷試験は陽性であった。迷走神経性徐脈あるいは洞結節機能不全と診断したが，無徴候であったため無治療で経過観察とした。第378病日に胸水貯留を認め，胸水の性状から乳び胸と診断した。リンパ管造影CT検査にて異常所見は認めず，試験的にプレドニゾロン（PSL）0.45 mg/kg SID を開始した。第385病日，胸水量に変化は認めず，シロスタゾール（CZL）9.1 mg/kg BID，ルチン及び低脂肪食を開始したところ，第392病日に胸水はほぼ消失した。以降PSLとCZLを減量しても胸水の増加は認めず，両薬剤と

も休薬し，ルチンと低脂肪食のみ継続とした。第427日，呼吸状態に影響のないレベルではあるものの胸水が増加しておりPSLを再開したが，第434病日に胸水の増加を認め，CZL 5.6 mg/kg BID を再開したところ第441病日に胸水は消失した。

3. 結果：第441病日以降PSLを漸減，休薬しCZLのみ継続したところ，第479病日の再検査時にも胸水貯留は認められなかった。その後もCZLを継続し，第1087日まで胸水貯留は認めていない。

4. 考察および結語：本症例では乳び胸は内科治療により一時的に改善したものの，CZL休薬により再貯留を認め，CZL再開後は良好に維持されている。CZLは心拍数増加作用を持ち，近年犬の洞不全症候群に対する有効性が示されている。本症例ではCZLにより乳び胸が消失したことから，心拍数増加に伴う静脈圧低下が乳び胸改善に寄与したと推測された。徐脈性不整脈と乳び胸が併発した場合，高度徐脈に伴う静脈圧の上昇を考慮する必要がある。